

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371301074		
法人名	有限会社 ビッグストーン		
事業所名	グループホーム ふれあい 1階		
所在地	名古屋市守山区日の後604番地		
自己評価作成日	平成25年2月2日	評価結果市町村受理日	平成25年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2371301074-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成25年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日のように利用者さんと一緒にホームでの必需品や利用者さんの欲しい物等を買いに掛かっています。日課として、毎日の散歩、ラジオ体操も続けています。出来る事は何でもして頂き自立支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは、利用者が主体性を持って生活ができるように、日常的な作業ができる方には、調理、盛り付け、配下膳、片付け等の一連の作業を役割分担してもらい、一人ひとりが役割を果たしながら生活している。職員も利用者が作業をしやすいように、リビングの食器棚の食器を置く場所には、その置くべき食器の写真を貼って表示し、誰でも簡単に食器を整理ができる工夫を行っている。さらに、ホームでは利用者の外出の機会をつくるように取り組んでおり、日常的な散歩も、利用者の希望に合わせて出かける時間を確保するなど、機能訓練にもつながっており、季節に合わせた外出についても定期的に行い、利用者の楽しみになっている。また、医療面でも、協力医への随時の受診支援にも対応しており、急変時には近くの総合病院への受診を支援しており、利用者が安心して生活できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に溶け込めるように、職員と共有しながら実践していきます。	「誠意、信頼、責任」を理念として掲げており、地域密着の視点から、日々のケアに努めるように取り組んでいる。理念に基づくケアについては、職員一人ひとりが意識するとともに、会議等の場でも振り返ることがある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加できるように、地元の方々と交流しています。小学校の運動会等に参加しています。	地域の子ども会の行事に利用者や参加したり、ホームに獅子舞が訪問して、利用者との交流を図っている。また、小学校の運動会の見学や卒業式の際には、ホームから祝辞を出して、交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の中で認知症ケアを行っていますので、接し方などいつでも伝えることができますので、相談できる体制です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	子供会主催の公園の清掃、草取りに利用者や参加しています。	会議には提携している薬剤師の方が出席しており、薬剤に関する説明を受けて、職員の知識向上に繋がるように取り組んでいる。また、ホームの運営状況を報告し、ホームへの理解を得てもらおうように努めている。	現状、会議に家族の参加がない。今後も継続して家族に参加を呼びかけるとともに、会議の内容を伝えることで、家族の方から参加されるような機会づくりにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	保護の方は守山区役所より、志段味支所に変更となり近くなった為、何かと便利になりました。又、役所の方も時々訪問して頂けるようになりました。	ホームには、生活保護を受けている方がいることで、区の担当者とは定期的な情報交換等を行っている。また、ホームの近くに支所が開設されたことで、日常的な交流に繋がるようになってきている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は介護保険で禁止されていますので、公的研修に参加し理解していますし、ケアカンファレスで話し合いを行っています。	玄関は日中は施錠をしておらず、さらにエレベーターも利用者が自由に使用できるため、玄関への見守りを徹底するようにしている。利用者の状況によっては、対応方法をフロア会議でも話し合うようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	昨年虐待防止の研修に参加し、職員会で研修の内容を報告し勉強会を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護の方については保護課の職員が定期的に施設にこられている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約前に理念や方針を丁寧かつ明確に読み合いながら説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族からの意見や要望等は、フロアー会議や、職員会議で検討し、運営に反映させている。ご家族の意見や要望を聞く機会を出来るだけ多く持ちたい。	家族が訪問した際には、管理者が対応し、その結果を職員にも伝えている。意見箱を目立たない場所に設置することで、家族のみならず利用者からも手紙を入れてもらうようにしている。また、ホーム便りを年4回発行している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアー会や職員会に出来る限り管理者が出席し、意見や提案を聞いている。	月1回のフロアー会議には、あえて管理者が出席しないことで、職員の方から意見を出してもらうように取り組んでいる。職員からの意見は、職員会でも話し合わせ、管理者は意見の把握とその実現に努めている。	昨年末より、管理者が法人代表者に就任したこともあり、今後に向け、個人面談の実施等、より職員の意欲を引き出せるような取り組みを行っていかれることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や研修等の情報を提示し、各自が積極的にスキルアップできるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講習会等の情報を提示したり、研修を受けやすい様に時間帯を要望により変更しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や講習等で同業者と繋がりを作りサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居で安心して生活を送る事が出来る様に、お試して体験入居して頂き、ここでの生活に不安感等を傾聴しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との聞き取りで自宅での生活面を確認し、ホームでの生活が、不安がないように必要なサービスを丁寧に説明しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設で提供できるサービスは勿論、他施設で利用可能なサービスも説明し、本人、ご家族が選択し、決定できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の価値観や、人生観などを尊重し、目上の方の生活の知恵を参考にしながら一緒に生活しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からの意見や考え、情報をお聞きするだけでなく、施設からも細かく情報をお伝えし、共に支援していく様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があれば支援させて頂いている。また馴染みの美容院に行ったり喫茶店にも出かけている。	ホームでは、家族の訪問時に、買い物や墓参りに出かけたり、正月に一時帰宅して家族と一緒に過ごしている方がいる。さらに、馴染みの美容院に継続して行けるように、ホームで支援を行っている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係の状況を把握し、相性が合う方と組んだり、職員が間に入りながら支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後であっても必要時には連絡を取り合い相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から、思いや考えを聞きとりアセスメントシートに落として、意向職員と共有しています。	職員が把握した情報はフロー会議等でも話し合わせ、アセスメントにつなげている。さらに、日頃から職員には気が付いたことを付箋に書いてもらい、それを計画作成担当者が整理することで、最新の情報を取り込むように工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やご本人からの情報を収集し、普段の会話にさりげなく要望が分かる問いかけをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の希望を尊重しながらも日常生活動作を確認し低下しないように、残存機能を活かしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントシートから情報を得てケアカンファレンスを行い、現状に合うケアプランにしています。	カンファレンスを職員の状況を見ながら、可能な限り月1回開催するように取り組んでおり、4～5人の方を検討しモニタリングを行っている。介護計画は基本4か月に1回見直ししており、内容をリーダーに伝え、職員に周知するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の思いや考えは職員間の記録に記入されており、本人の要望と理解しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	内容により相談しながら、ご本人や家族の希望に添えるように行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域への行事で子供会と一緒に近くの公園の清掃活動に参加し交流を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状態により地域の専門医受診したり、協力医の往診も月に1度行い、状態に応じて2回往診もあります。	提携医がホームの近隣で開業しているため、利用者の状態に応じて、柔軟な受診が受けられる体制であり、日常的にも月1回の往診がある。また、他科受診についてもホーム近くの医療機関への受診支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に、日頃の体調や気分の変化を伝え相談しながら、安心して暮らせるようにしています。状態が変わったら、まず訪問看護師に連絡し支援を要請しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の医療と連携を取り情報を共有し安心して治療が出来る様に行っている。病院のワーカーとの連絡を密に行っている。また面会時に担当ナースから最近の状態の確認を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、家族の方と一緒に相談し必要な医療機関と連携が取れるように支援を行っています。	家族とは、重度化に関する指針を示しており、同意を交わしている。ホームでは、基本看取りを行わない方針であり、利用者の状態に応じて、医療機関とも連携しながら次の生活場所への支援を行うように、家族と話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は事故等に備えていますし、救命講習を受講しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防と一緒に避難訓練をし、毎月避難訓練を行い、直ぐに対応できるようにしています。	避難訓練の際には、通報装置の使用方法を学んだり、夜間を想定した訓練も実施している。地域との交流を含めた災害時の協力関係の構築や備蓄品の確保については、充分とは言えないため今後の課題とも言える。	地域で行われる災害訓練に参加したり、ホームにAEDが設置していることで、双方の協力体制がつけられることを期待したい。また、備蓄品の見直しについても期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者1人1人の個性や性格を理解し尊厳を持ちその方に合った言葉掛けを行っている	ホームでは、一人ひとりに合わせた声かけや尊厳に配慮した接し方を行うように、職員への周知を図っている。職員は、声のかけ方等に注意するようにしているが、リビングの面積が広くないこともあり、声が大きく聞こえることもある。	リビングが壁に囲まれているため、職員の声が大きく聞こえたり、口調が厳しいように聞こえたりすることがある。職員間で意識することで気づきになることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の思いや希望を表に出さない方にもその人らしい生活をして頂けるよう日常会話の中で聞き出している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何事に関してもまずは説明し利用者の意向を伺うようにしている。また、その方の望みに沿った支援をさせて頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品の購入や毛染め、散髪その他、好きな洋服を自分で選んで着て頂くよう支援している。時にはスタッフが助力させて頂き、いつもと違ったおしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	外食では個々に好きな物を食べて頂き、ホームでも食材を切ったり、盛り付けとかたづけ等当番制にして、主体的に楽しんで食事が出来る様に支援している。	調理を職員と利用者もできる方は参加しており、片付けや食器拭き等についても利用者で役割分担をして行っている。また、食材は業者による配達であるが、ホームに届いた際には、利用者も仕分けに参加しており、一連の作業を楽しく行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の身体状況に応じて白米や、おかずの量を制限して、健康管理に努めている。水分摂取量の少ない方はチェック表に記入して管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをして頂くよう声掛けをして促している。利用者の状態にあわせて見守り支援介助をさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターン、状況に合わせて、トイレ介助、おむつ交換をさせて頂いている。尿量、便の状態も確認し、排泄チェック表への記録をしている。	排泄が自立している方もいるが、その方にも排泄状態を聞いたりしながら把握に努めている。適時の排泄が困難な方には、チェック表に記録し、職員が時間や状況をみながら声をかけ、トイレに案内している。また、ポータブルトイレを利用している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や乳飲料の摂取の他、主治医、訪問看護師と相談し、下剤を服用したりで、不快感を与えない様支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望を伺い、順番を決めている。拒否される方にも、無理な声掛けを行わず本人のペースで入浴して頂いている。入浴剤を使用し、視覚・嗅覚を楽しめるように工夫している。	入浴は、ユニット毎に一日毎に行っており、不公平にならないように、順番を決めて入浴している。拒否する方には、無理強いすることなく、入浴剤を使ったり、季節に合わせた柚子、菖蒲湯等を行ったりしながら、楽しく入浴できる雰囲気づくりに努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の外出や行事、健康面の状態等からくる疲労も考慮しながら、就寝の声掛けや見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤提供書をファイリングしており、誰でも確認出来る様に開放しており、薬剤の副作用についても、共有化を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人の生活歴や特技を把握し、日々の手伝いレクリエーションを提供させて頂いている。残存機能の活用に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望物品はメモしておき、出来るだけ早く買い物に同行している。親類や友人に会いたい希望も日程調整し、代行し、引率支援をしている。	ホームでは、利用者が外出する機会をつくっており、天気の良い日には毎日散歩に出ている他、買い物や外食にも出かけている。さらに、季節の日帰り旅行を行ったり、花見の季節には複数回外出して、楽しい時間をつくっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭面は管理させて頂いている為、利用者さんはお金をもっていません。個人の買い物時には財布を持ち、自分で支払いをして頂くので見守りをしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、番号入力を支援し、いつでも電話して頂いている。手紙も自由に書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	座席の位置に氏名や説明のシールを貼ったり、フローアの壁に行事の写真・折り紙等を飾り、季節感をだして楽しんで頂いている。	ホームは、リビングが南向きで窓が大きく採光が良く、明るい雰囲気である。キッチンの流し台は壁に向かっていているが、対面式のカウンターを設置したことで、利用者も調理に参加できる場所をつくっている。また、壁には外出の様子を貼り、利用者の思い出になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性を考慮した座席の配置やソファを設置する事でリラックスした時間を過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に利用者の使い慣れた物品は可能な限り使用して頂き、安心して生活して頂ける様支援している。	居室は、和風の天井や壁紙にすることで、シンプルで落ち着いた雰囲気である。利用者毎に、家具、写真、趣味の小物等の馴染みの物を持ち込んでおり、その方が過ごしやすい環境を整備している。	利用者によっては、大きな家具や多くの小物を持ち込んでおり、それが部屋全体を占めている。今後に向け、安全対策を充分に行われることについても検討と工夫を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室の場所がわかるよう文字に表し、各居室にも名前を付けている。浴室には滑り止めや手擦りを設置している。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームふれあい

目標達成計画

作成日: 平成 25年 3月 14日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	リビングが広くない為かスタッフ同士の会話が周りに聞こえ、利用者の情報が他の利用者に聞こえてしまう、又は会話の人物を特定出来てしまう。	スタッフ同士の会話やスタッフ・利用者間においても、他の利用者の尊厳やプライバシーを侵す事がないようにする事。	フロア会を通じ、尊厳やプライバシーの侵害になる言葉等を話し合い、侵害となるラインを共有認識する。	3ヶ月
2	48	家事や雑務に追われ、なかなか個々に合ったレクリエーションを実施できていない。	スタッフが利用者一人一人と向き合う時間をつくる事ができ、個々に合ったお手伝いやレクリエーションを実施する事で生きがいをつくる。	フロア会を通じどうすれば利用者に向き合う時間をつくれるか話し合い調整していく。	3ヶ月
3	44	便秘の方がいる、歩行調整や下剤の投薬が抜けてしまう(未実施の時がある)。	食事・運動・薬療法により便秘を改善・予防し排泄リズムを整え、不快感のない暮らしを送って頂く(QOLの向上)。	フロア会議で、便秘のメカニズム、改善方法を再度話し合い知識と意識を高め全員で抜けの無いよう徹底していく。	1ヶ月
4	40	現状、誕生日の時にしか外食する機会を設ける事が出来ない為もっと外食する機会を増やす。	月に一度、外食する機会を設ける。	利用者の1ヶ月の出費等を考慮する。ご家族の了解を得る(金銭面で)。	3ヶ月
5					ヶ月